剣道が教えてくれたもの

徳島県
佐古剣道クラブ
中学２年　　谷　本　　遙

ぼくは小学校一年生から剣道を習い始め、中学校二年生になった今でも、部活とクラブの両方で剣道を続けている。苦しいこともたくさんあるけれど、仲間と剣道をすることが楽しく、自分が試合に勝って強くなっていくことが嬉しかった。しかし、小学生のときはあまり剣道と勉強の両立について悩んだことはなかったのに、中学生になってから学校の課題が増え、勉強との両立が苦しいと思うことが増えてきた。勉強に力を入れると稽古をする時間が十分に取れなくなり、試合で良い結果が出せなくなる。かといって稽古に力を入れると疲れてしまって勉強が思うように進まず、そのまま寝てしまう。どちらかの結果が残せないとき、ぼくはその他方を言い訳にして「大変だから仕方がない」と思うようになっていた。そしてどちらとも中途半端になっているような気がして、ぼくはもう一度剣道をしている意味についてよく考えてみた。

剣道をしてきて良かったこと、それは試合に勝つ嬉しさだけではなかったと思う。ずっと一緒に剣道をしてきた仲間に励まされて辛いことを乗り越えられたこと、うまくいかないときは一緒に考えてくれて心強かったこと、稽古の休み時間や試合の行き帰りにふざけて笑いあったことなどたくさんある。今でも同じクラブの友達とは仲が良いし、時々試合でも会う他の道場の剣士とも声を掛け合い応援し、交流している。

また、剣道以外で辛いことがあったときは「ぼくはあれだけきつい稽古を乗り越えてきたのだ。これくらいのことは大丈夫。」という気持ちで頑張ることができた。一人で何かをしなければならないとき、試合場に一人で立つ自分を思い出し、自分を奮い立たせることができた。そういうことが思い浮かんできた。ぼくはそれを忘れていた。

大切なのは試合に勝つことだけではない。剣道の理念を「剣の理法の修錬による人間形成の道である」としているように、剣道を通して、礼儀や作法を学

び、それを人生に活かすことが剣道をすることの意味なのだとぼくは思い出した。勉強も剣道も一生懸命頑張って、それで良い結果が出なかったとしてもその努力を続けていくしかない。その努力を続けていくことこそが大切にしなければいけないことなのだ。

　これからの人生において、ぼくは何度も辛いことやどんなに努力してもうまくいかないことに直面するだろう。そんな時、自分と向き合い、卑怯なことをせず、これまでの自分を思い出して進んでいくこと教えてくれたのが剣道なのだ。先生が教えてくれたのは正しくまっすぐに剣を振り、一歩一歩進んでいくこと。仲間が教えてくれたのは、ぼくには一緒に戦ってきた仲間がいて、剣道を続けていく限り支えてくれること。ぼくはこのことを思いながら、これからも剣道を続けていきたい。